

第29号

2025年7月  
発行

# きらきら星

市立旭川病院だより



アカゲラ

(撮影 北2病棟看護師長 山本 みき 2024年3月 道北の森の中にて)

目	旭川市病院事業管理者・院長よりごあいさつ .....	2
	中央放射線科のご紹介 .....	4
	認定看護師のコラム .....	7
次	整形外科の入院・手術が可能になりました .....	8

発行

市立旭川病院広報委員会  
旭川市金星町1丁目1番65号 ☎(0166) 24-3181  
経営管理課 内線 5513 地域医療連携課 内線 5373

## きらきら星について

市立旭川病院があるのは金星町。  
金星はヴィーナス（美の女神）です。皆さんに  
きらきら輝いてほしいとの願いを込めました。

## 旭川市病院事業管理者・院長よりご挨拶

令和7年4月に病院事業管理者、病院長が交代いたしました。この場を借りてご挨拶申し上げます。



### 病院事業管理者 石井 良直

日本内科学会認定医  
日本循環器学会専門医  
日本心臓病学会特別正会員  
日本不整脈学会  
日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医  
日本集中治療医学会

青木秀俊先生の後を受けて2025年4月1日より、旭川市病院事業管理者の任に就きました。

「患者さん中心の医療を行い、市民から信頼される病院を目指します」を基本理念に、上川中部2次医療圏で唯一の市立病院として、地域住民の命と健康を守るため職員一丸でチーム医療に取り組んでおります。

地域がん診療連携拠点病院として精力的にがん診療に取り組んでいます。2023年に最新鋭の放射線治療装置を導入し、定位放射線治療、強度変調放射線治療などを短時間で高精度に行うことが可能です。ロボットを用いた低侵襲手術も外科・泌尿器科で実績を重ね良好な成績をあげており、血液内科では認定施設として造血幹細胞移植を行っており、歯科口腔外科と耳鼻咽喉科では連携して口腔がんや頭頸部がんの手術に取り組んでいます。消化器内科では、多くの内視鏡治療の他、難治性の炎症性腸疾患に対するIBDセンターも開設されています。

救急医療では、2次救急のほか、夜間の小児科1次救急および夜間急病センターでの1次救急



を担っています。循環器系は、1971年に道内初のCCU（冠疾患集中治療室）を開設し、内科・外科とも診療実績が多く、現在は循環器病センターとして高度な医療を展開しています。2024年10月に新たに血管外科が開設され、腹部以下の動脈・静脈の疾患に対して最先端の治療が可能となりました。

精神神経科では、公的病院としては市内で最も多くの患者さんを受け入れており、身体疾患を合併する場合には全診療科と連携して診療にあたっています。

感染症指定医療機関として感染症病床を常備し、新興感染症などに対していち早く対応しております(新型コロナウイルス感染など)。

本年4月からは整形外科に16年ぶりの常勤医が着任され、入院・手術が可能となりました。

市立旭川病院は、道北の基幹病院として高度で質の高い医療を安全に提供し、地域の医療、地域の人々の健康維持に貢献して参ります。





## 院長 垂石 正 樹

日本内科学会認定医・総合内科専門医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医  
日本緩和医療学会認定医  
日本癌学会  
日本臨床腫瘍学会  
日本癌治療学会

石井良直院長の後任として、2025年4月より市立旭川病院長に就任いたしました。

当院は1930年（昭和5年）に貧困者医療機関として開設された長い歴史があり、その設立目的は「経済的な事情に関わりなくすべての市民が最先端の医療を受けることのできる医療機関の設立」でした。この設立の志は当院の基本理念である「患者さん中心の医療を行い、市民から信頼される病院を目指します」として各職員に周知され、実践されています。

当院は地域がん診療連携拠点病院（旭川に3病院）に指定されており、がん治療の均てん化（全国どこでも同じ治療が受けられる）を目標にがん診療にとりくむとともに、道北・北空知医療圏の医療者を対象とした講演会や市民向けの啓蒙活動を積極的に行っています。緩和ケアチームやがん相談支援センターも整備されており、がん診療に関わるさまざまなニーズに応えるべく体制を整えています。

救急疾患に対応すべく循環器病センター、消化器病センターが整備され、夜間救急も含め断らない医療を実践しています。消化器内科には患者さんが増加傾向にあるIBD（潰瘍性大腸炎やクローン病など）を対象として、その治療のみならず学業や就労サポート、栄養相談や病気を抱えた悩みなどに対応するためIBDセンターも開設されています。日々進歩するIBDの診療に精通した医師や患者さんを支える他職種の連携が実践され、患者さんのQOL向上を目指した診療が提供されています。

旭川市も全国を上回るスピードで高齢化、人口減少が進んでおり、医療を取り巻く環境は厳しさを増しています。当院は上川中部2次医療圏唯一の市立病院として、受診した患者さんが当院を選んで良かったと感じていただけるよう、職員一同、基本理念を実践し努力して参ります。



## 中央放射線科のご紹介

中央放射線科では、放射線を用いた検査・治療を行っています。

19名の診療放射線技師が在籍し、他職種のスタッフとも協力しながら、安全かつ正確で質の高い検査・治療を受けていただけるよう、日々心がけながら業務に取り組んでいます。

今回は私たちが行う検査や治療についてご紹介いたします。



### ● 2024 年度実績

一般撮影検査（X線撮影）	36,024 件	MRI 検査	2,961 件
X線 TV 検査	1,150 件	核医学検査（RI 検査）	694 件
骨密度検査	624 件	心臓血管カテーテル検査	560 件
マンモグラフィ	937 件	DSA 検査	446 件
乳がん検診専用超音波検査	210 件	放射線治療	252 人
CT 検査	11,112 件	CD 取り込み・CD 書き出し	4,567 件

※ DSA検査は装置の更新に伴い約2か月の休止期間あり

※ 心臓血管カテーテル検査はペースメーカー埋め込みと不整脈治療含む

### ● 学術活動（学会・認定資格）

専門性の向上や、最新の知見・技術の修得を目指し、日々研鑽を重ねています。

#### 所属学会

- ・日本診療放射線技師会
- ・北海道放射線技師会
- ・日本放射線技術学会
- ・日本IVR学会
- ・日本放射線腫瘍学会
- ・日本磁気共鳴医学会
- など

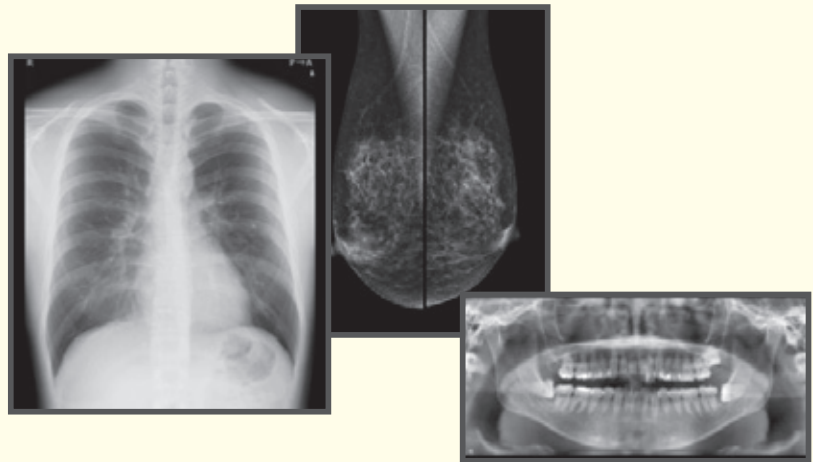
#### 認定資格

第一種放射線取扱主任者	4 名	マンモグラフィ認定技師	4 名
放射線治療品質管理士	2 名	X線 CT 認定技師	2 名
放射線治療専門放射線技師	2 名	血管造影・インターベンション 専門診療放射線技師	1 名
医学物理士	2 名	臨床実習指導者講習 修了	2 名
日本磁気共鳴専門技術者	2 名	ピンクリボンアドバイザー	1 名

## ●放射線検査・治療について

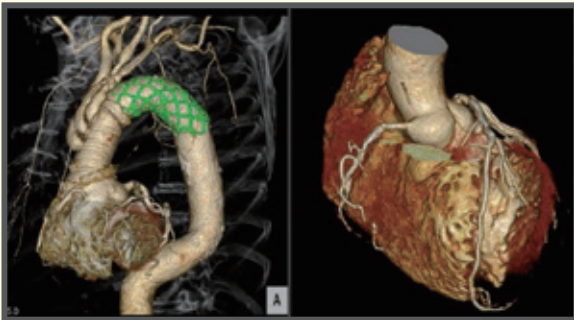
### 一般撮影

胸部や腹部、整形領域の撮影をはじめ、歯科領域やマンモグラフィなど全身のX線撮影を行っています。装置のX線出力を最適に調整することにより、従来と比べ被ばく線量が大幅に低減しています。



### CT検査

高性能なCT装置や画像処理装置を用い、常に新たな技術を取り入れることで、低被ばくかつ高画質な画像を提供できるよう心掛けています。心臓・大血管領域の検査も多く、冠動脈検査では、狭窄やプラークの状態が分かりやすいようレポートを作成し提供しています。

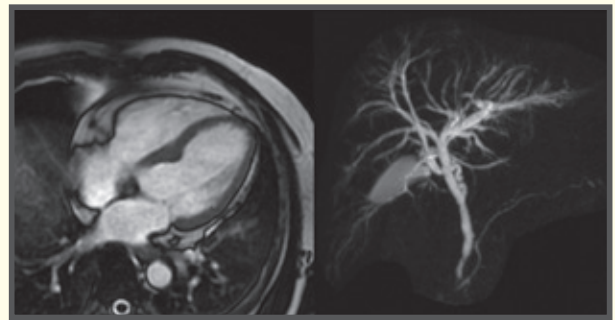


### MRI検査

磁気と電波を用いて行う検査です。X線を使わないため、被ばくの心配はありません。

MRIは病変の性状評価等に優れた力を発揮するため、精密検査にも多く用いられています。

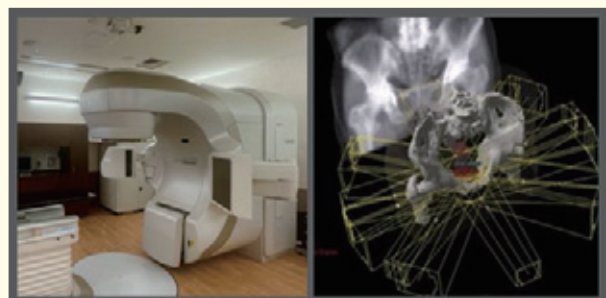
当院には市内でも数少ない認定取得者が在籍し、精度の高い検査を提供しています。



### 放射線治療

放射線を照射することにより、癌の治療や痛みの緩和を行います。当院は最新の放射線治療システムを備えているため、対象疾患に対しピンポイントで放射線を照射することが可能であり、従来と比べより高精度な治療が可能です。

医師や看護師と連携し、最善の治療を安心して受けていただけるよう努めています。







## ●新しい装置のご紹介

### 2025年3月に新しいDSA装置(血管造影X線診断装置)を導入しました

#### ●血管造影とは

カテーテルと呼ばれる細い管を血管に挿入し、造影剤を注入して動画撮影することで、血管の狭窄や閉塞、動脈瘤の有無、腫瘍の分布や血流状態を調べる検査です。検査、治療の領域は大きく分けて頭頸部、腹部、心臓、胸腹部大血管、四肢血管に分類されますが、今回導入した装置は主に、大動脈や四肢血管、腹部臓器の検査・治療に用いられます。

#### ●新しい装置の特徴

##### ① 高画質

最新のX線発生装置と高精細な画像化システムにより、血管の詳細情報や、カテーテルやバルーン（狭窄した血管を広げるためのカテーテル）等の治療デバイスの形状などが観察しやすくなりました。また、従来では苦手としていた高体重の患者さんでも綺麗な画像を得ることができるようになりました。

##### ② 低被ばく

新しい画像処理技術により従来の装置と比べ、腹部領域で50-70%、下肢領域で80%被ばくを低減することができるようになりました。そのため、手技に時間がかかり被ばくが増えがちになる複雑な検査や治療でも、体への影響を最小限にとどめることが可能となりました。

##### ③ 高い操作性

洗練されたユーザインターフェイスや見やすいモニターにより、簡単に確実に装置を操作することが可能となったため、医師はカテーテル操作に集中することができます。また手技をサポートするソフトウェアが充実し、より質の高い検査・治療が可能となりました。



**中央放射線科はこれからもより質の高い検査、治療とパフォーマンスの向上をサポートしていきます**

## 5月5日は手指衛生の日

5月5日と言えば「こどもの日」ですが、「手指衛生の日」でもある事をご存じの方は少ないと思います。

1994年からWHO（世界保健機関）は毎年5月5日を「世界手指衛生の日（World Hand Hygiene Day）」として医療施設における手指衛生の重要性を啓発し、医療関連感染（院内感染）の予防を推進しています。5月5日は両手を広げた時の5本の指をイメージして制定されました。もう30年続けられているキャンペーンです。

当院でも3名の感染管理認定看護師が中心となり、医療従事者の手指衛生強化に取り組んでいます。医療従事者は患者さんを医療感染から守るためにアルコール手指衛生剤や流水と石鹸による手洗いを適切に行うよう心がけています。

私たちの生活の中でも、しっかりと手を洗うことは胃腸炎やインフルエンザなどの予防に最も簡単で、誰でもできる感染対策です。特に胃腸炎の原因となるノロウイルスなどはアルコールが効きづらいウイルスですので、食事の前、トイレの後、外出から戻ったら石鹸をよく泡立てて手を洗うことが大切です。

手洗いは、指先や指の股、親指、手首に洗い残しが多いと言われています。指先や親指はよく使う指ですので、しっかり洗うように心がけ感染症を予防しましょう。

感染管理認定看護師 寺部 美香

### 洗い残しが起きやすい部分



手の甲

手のひら

花王「そなえーる災害時の過ごし方」より引用

### 医療従事者が行う 手指衛生のタイミング ～「5つのタイミング」～



(お知らせ)

# 市立旭川病院で整形外科の 入院・手術が可能となりました

令和7年4月より整形外科常勤医が着任しました。

着任医師 **北原 圭太**

日本整形外科学会認定専門医

日本スポーツ協会公認スポーツドクター

医学博士

日本人工関節学会

日本骨折治療学会

日本股関節学会

日本小児整形外科学会

新たに病床12床を設置し、一部の病室には  
車いすでも利用できるトイレや洗面台を設置しています。

また、当院の整形外科は  
**北海道大学大学院医学研究院**  
**整形外科学教室**の診療応援を受けています

教授 **岩崎 倫政**

上肢（肩・肘・手）

特任教授 **須藤 英毅**

脊椎（首・腰）

講師 **清水 智弘**

股関節・小児股関節  
骨粗鬆症・関節リウマチ

助教 **松岡 正剛**

腫瘍・下肢（膝・足）

我々  
さっぽろ  
病院

**平塚 重人**

脊椎（首・腰）

上記医師の診療の詳細については、  
当院 **整形外科外来**にお問い合わせください。

（市立旭川病院 代 0166-24-3181）

お知らせ

市立旭川病院で整形外科の入院・手術が可能となりました